

発表で使用する言葉について

ターミナルケア → 看取り

特別養護老人ホーム → 特養

スライドのみ見て頂く部分もあります

～特養での看取り～

133名が慈恵園を選んだ理由

特別養護老人ホーム 芦別慈恵園
くらし事業部 お客様連携係
介護支援専門員 滝口千秋

特養は終の棲家…

今年度の新規入居

慈恵園本体：35名

→平均年齢は88歳

厚生労働省発表の最新の平均寿命

男性：80.79歳

女性：87.05歳

平均寿命と健康寿命の差

男性：9年

女性：13年

入居の前から始まっている 看取りへの時期

体力・気力の低下
老衰と言われる時期に入っている…

平成17年度から看取りケア開始

入居時にご家族の意向を確認

暮らしぶり、体調が変わると
再度、今後について相談

看取りケア開始
平成17年～
今年度まで
133名の方を
お見送り

年度	人数
平成17年度	7名
18年度	10名
19年度	12名
20年度	10名
21年度	10名
22年度	7名
23年度	13名
24年度	15名
25年度	19名
26年度	6名
27年度	6名
28年度	18名
計	133名

H様 女性
入居時の年齢：78歳
要介護度：4
平成27年10月に入居



※事例発表すること、写真の掲示は
ご家族に同意を得ています

本当は
家良かった



入退院を繰り返すように

白内障の手術にて入院：

H27年12月18日～12月26日

内科へ入院：H28年5月12日～5月27日

内科へ入院：H28年9月20日～10月1日

「病院に連れて行って」

11月4日 主治医からは

大病を患っている中
今の状態は良いと考えるべき
もう、やるべき治療は無い

病院を望むなら入院を考えるが
慈恵園という思いがあるなら
慈恵園での最期が本人のためでは…

ご家族の思いは…

病院でも治せないなら
入院する意味はないかな

ただ、寝ているだけで
会話もない
そんな毎日が続くのは嫌だと思う

慈恵園の暮らし、
看取りの方向性を示すチーム
「栄養ケアチーム」

H様に最期までどのように
暮して頂くか…
ご本人の気持ちの支えは
「家族」

11月10日
ご家族と思い出に残る食事を



このあいだのグラタン
美味しかった

ご家族と
お誕生日のお祝い



12月27日 永眠
享年 79歳

慈恵園での暮らしのアルバムが
ご家族の宝物へ

私は幸せだ
子ども達が優しく育ててくれて良かった

いつも「ありがとう」と
言われていたH様

H様だから
ご家族と一緒に看取ることができた

特養に入ると
「安心」
「お任せしたい」

特養での暮らしと
家族の時間

平成28年12月27日永眠
享年 79歳



最期まで
暮して頂き
ありがとうございました

胃瘻についての迷い

胃瘻を造らないと
餓死する？

胃瘻を造って退園したM様

母はあちこち悪いところがあって
痩せているし
ご飯もたくさん食べられません

歳もとったし
管で栄養を入れるのが
本当に良いかは分からないのですが

このまま衰弱してゆく姿を
見るのが辛い

胃瘦は
母の意志というより
私の思いです

何もしないで死なせることはできない

ご家族の思い

慈恵園の玄関に入ると
母の姿を探してしまいます

もう何年も経っているのに
おかしいですね

面会に来た時には
散歩しながら
玄関のお花を見に来て

花の名前を言う母の姿が
嬉しかったんですよ

元気で会話していた頃を
思い出します

平成24年永眠
いこいユニットS様長男

いくら医療費が掛かっても良い
母には十分な医療をとっていた

自分が入院してわかったが
病院の生活は辛い

高齢の母にとって入院生活は
どうなんだろうと思い始めた

胃瘦にすると
もっと長生きできるのだろうか

でも、穏やかな顔は無くなるだろうね

苦勞した母を
最期に苦しめることは避けたい
慈恵園で最期にしたい

慈恵園の胃瘦の方の受け入れは5名

4名：介護計画に離床

3名：口からゼリー等を食べている

2名：学習療法を実施

平成19年入居、22年永眠
ひまわりユニットA様：長女様

母は病院が嫌いだから
絶対行かないと言う

「順番は守る」と言っていたが
私の方が調子が悪いくらいだ

もう100歳に近い
病院に行って若返るわけではない
自然に…と願っている

死ぬ前は痩せる
当たり前のこと
ご飯なんて食べれないでしょ

そんな母に
大好きなトマトや桃を
ジュースにして口に入れてくれる

長生きしてご褒美を貰っている
美味しいだろうね

もう危ないと電話が来て
夜遅くに慈恵園に行ったら

いつも面倒みてくれていた
YさんとHさんが側に居てくれた
最期まで大事にして貰った

満足だったと思うよ
思い残すことは何もないね

90歳を超えて入居のA様

「ドロドロの御飯は嫌」

テリー又食はない

歯科往診もない

口腔ケアの手法も知らない

リハビリも委員会もない

けれど、満足した生活だった

改修工事でお部屋も変更

スタッフも入れ替わる

眼の見えない母に
自己紹介してくれた人がいるね

あの性格のキツイ母の顔が
穏やかで別人のようだ

皆でA様の同じジュースを飲む

人に手を借りるような人ではない

自分でコップを持って
飲んでいる気分にして貰っている

慈恵園に入らなかつたら
とっくに死んでいたね

私たちの役割は

一時だけお預かり
きれいな姿でお返しする

特別ではない「暮らし」

技術や知識も大切だけれど

お客様、ご家族は
気に掛けて貰いたいのでは…

職員皆で見送るのが
慈恵園での最後

「一緒に暮らさせて頂き
ありがとうございました」

特養の暮らしは
どう死ぬかではなく
残りの時間を
どう生きて頂くか…

慈恵園の介護理念

ひとり一人の生活や暮らしを大切にします

最期の時まで口から食べる
食事の工夫をします

ご家族と一緒に看取ります

ご清聴ありがとうございました